



アカペラは、常に気を張って!!



6月20日の練習から

発声：(ヤーヤーヤー)・遅くなるので、子音は前の母音に付けて歌う。

(ローローロー)・急に何を言われても、体が反応できるように準備していること。

・高い音だけ突出しないで、きれいに通過してほしい。

(オーアーオー)・(オー)は、口腔内を広く。顎を鎖骨に向かって近づける感じ。顎関節のところに指が入る感じで歌うこと。はつらつとした顔で。(アー)は、(オ)に向かって。

ロマंचストのぶた： (混声4部のバージョン)

・p19 (ロマंचストのぶたがいた～おしりはまるくー)は、SP と Ten、ALT と Bas は、ユニゾン。しかし同じ音に聞こえない。ここを上手にあわせられるといい。

・p19 (いつもはなを)で、Bas は同じ音。同じ音が続くとき下がっていくので、前の音よりも、高い音で歌う感じで歌うようにすると下がらない。

・p20 (ロマंचストのぶた)では、Bas の音を大きめにほしい。

・1回目に(ぶた)といっている人は、大きめに。2回目は余韻なので小さめに歌う感じ。

・p20 (ラララララーラ)で、後半の(ララ)にスタカートがついているので軽く歌う。半音ずつ上がっていくので高揚感が増し、盛り上げていく感じ。

・(この音程を取ろう)という意識をもって出ること。何となくではだめ。

・(縦が揃う)というのは、(同じ方向を向いて歌うという意識を持つこと)が大切。

おんがく：

・下から音を救って歌わない事。

・音を確認するあまり、遅くならない様に。



★～ちょこっとメモ～

先日、「水のいのち」のお話が出ていたので、私は歌ったことがないので、気になり調べてみました。

高田三郎さんのコメントがインターネットにのっていたので、ご紹介します。

『「水のいのち」の本当の訳は、「The Soul of water」と思っている。「Soul」即ち「魂」とは、「それがあれば生きているが、それを失えば死んでしまうもの」なのである。そして、水の「魂」とは、低い方へ流れていく性質のことではなく、反対に、「水たまり」は「空を映そうとし」、「川」は「空にこがれるいのち」なのであって、それはまた、私たちの「いのち」でもあり、この組曲の主題でもあるのだ。』

すごい曲なんだなと思い、早速、You Tube で聞いてみました。岩手大の混声合唱団のを聞いてみて

感情を抑えながら美しい響きで歌いあげていたので、感動をおぼえました。難しい曲だと思いましたが、この曲を歌えることは、幸せだとも思いました。(K)

連絡： Mさんから、お礼のメール

こんにちは。この度はたくさんのお祝いを頂戴し、本当にありがとうございます。なんの貢献も

できていないのに、こんなに良くして頂いて恐縮です。皆様にもどうぞよろしくお伝え下さい。落ち着いたらぜひご挨拶に伺います。皆様にお会いするのを楽しみにしています。